

【様式1】

概要書

<p>研究名</p>	<p>建築物の外壁の検査診断方法の検討</p>
<p>民間機関等 (相手方)の名称</p>	<p>株式会社 ムサシ</p>
<p>研究の概要</p>	<p>建築構造物を健全な状態に保つためには、定期的に検査し適切に補修する必要がある。築後 20 年を経過するような建物では経年劣化により外壁の落下事故が生じるなど、構造物をどのように維持保全していくかが社会的にも大きな課題となっている。今後さらに検査対象となる建築物も多くなることから、保全の観点からも劣化を正確に診断することと、その結果をもとに適切に補修することが求められる。</p> <p>そこで外壁の診断に有効な方法の検討として、欠陥部を有する試験体を対象とした試験を行なうとともに、欠陥部補修後の効果の確認試験を実施する。この結果をもとに、実建物の検査・診断の際に有効なデータを得るとともに、効果的な検査方法を検討することを目的とする。</p> <p>試験方法： タイル張りの外壁に欠陥部を有した状態を生じさせる方法として、国交省国土技術政策総合研究所が実施した耐震性評価の手法を用いて、試験体を対象にダイアゴナル試験と変形追随性試験を実施した。</p> <p>実施概要： 耐震性評価試験の手法による試験により浮き剥離の発生過程を記録し詳細に考察した。この試験により欠陥部を有する壁体片を再現できたが、試験体の厚さ方向の制約から補修方法の検討にはいたらなかった。一方でダイアゴナル試験の追加試験を通して欠陥が生じる過程を詳細に確認することにより、仕様ごとの付着性能を考察し、外壁の検査診断方法のための有効なデータを得ることができた。</p>